

海辺の教室（特別編）鹿児島・種子島 オンラインミーティング 報告書

実施日 : 2023年3月30日(木) 13:00~13:50 Zoom

参加者 : 5名(高校生1名、九州大学うみつなぎ関係者4名)

概要 : 2022年度、九州大学大学院工学研究院附属環境工学研究教育センターは、九州各県での現地教室（海辺の教室）開催を目標のひとつとして掲げた。しかしながら、コロナ感染拡大対策による制限や、夏の猛暑のため、調整に難航し、唯一鹿児島県での現地教室を開催することができなかった。

しかし、幸いにも鹿児島県の種子島で環境活動に携わっている高校生グループとの接点があったため、活動内容のヒアリングや、今後種子島で現地教室が開催できるか意見交換を行った。

背景 : 2022年10月、パタゴニア日本支社が開催した「草の根活動家のためのツール会議」（鹿児島県志布志市）で、種子島の海と山をつなぐ会で活動する高校生（種子島高等学校）グループと、九州大学うみつなぎ統括プロデューサーの清野聡子准教授とが知り合った。

若年層への海洋教育の推進を活動の基盤としている九州大学うみつなぎへの理解と興味を持っていただき、今回のミーティングが開催できる運びとなった。

<ミーティングの流れ>

- ・自己紹介と清野准教授による主旨説明（10分）
- ・種子島での環境活動のヒアリング（25分）
- ・種子島で現地教室を行うための意見交換（10分）
- ・清野准教授による総括（5分）

<要約>

種子島の海と山をつなぐ会で活動する高校生らは、藻場の再生を目標とし活動を始めたが、藻場が減少していくひとつの要因として、森が痩せ、海に供給される水質の低下が考えられることから、森林を再生することによって藻場再生に貢献できると考え、落葉樹の植林などの活動へと発展した。直近の活動ではわかさ公園とヘゴの森に約100本の落葉樹の植林を行った。

他にも、ビーチクリーン活動、水質調査（1月・馬毛島）、自然に還れるシュロの木の皮やカシワの葉を用いた苗木ポットを作るなどを行っている。

高校の総合的な探求の時間から始まった活動は、地域の大人たちも巻き込み、植林活動やポットづくりの指導や、水質調査のために漁師さんが船を出してくれるなど、サポートを得て活動を行っている。

活動地域は西之表が主であり、ビーチクリーン活動は、美浜海岸で行うことが多い。普段泳ぎに行ったりする海水浴場ではごみは少なく綺麗な状態ではあるが、ひと気の少ない海岸では漂着ごみが多く、外国製の漂着物も多く見受けられる。

今回、ミーティングに参加してくれた高校生は、ウミガメの生息環境を守る活動に興味を持っている。種子島はウミガメの産卵地としても重要な場所であり、産卵場所となる砂浜の保全につながる活動や、学習の提案をしたところ好感触を得られた。

清野准教授からは、種子島は海岸に隣接する遺跡があり、海岸浸食によって遺跡の保存に関する課題を抱えており、これらに関しての展開も提案がされた。

また、種子島の海と山をつなぐ会で行った水質調査の手法や評価について、これまで水環境の研究に尽力してきた鶴木研究員からは、さらに深掘した研究として高めていける提案があった。

<所感>

ウミガメの生態や産卵地に適した砂浜や環境への知的見解、それにつながる海岸保全あるいは、水質調査の手法や評価、考察については、我々九州大学うみつなぎ統括プロデューサーである清野聡子准教授が専門としてきた分野であり、九州大学うみつなぎとしても教育的支援が行うことが大いに期待できる。2023年度の現地教室（海辺の教室）の開催候補地として前向きに検討を進めていきたい。

参加者氏名・所属

鹿児島県立種子島高等学校 2年生 生徒（女性）

清野 聡子 九州大学大学院工学研究院附属環境工学研究教育センター 准教授

鶴木 陽子 九州大学大学院工学研究院附属環境工学研究教育センター 学術研究員

木下 英生 九州大学大学院工学研究院附属環境工学研究教育センター テクニカルスタッフ

西 高一郎 九州大学うみつなぎ プロデューサー・レジリア代表

報告者

九州大学大学院工学研究院附属環境工学研究教育センター

テクニカルスタッフ 木下 英生